

一次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

本章の前半で私は、「市場経済は便利なツールではある。しかし同時に、完全でもA万能でもない」と述べました。裏を返せば、市場経済は、社会的弱者の救済や地域格差の解消、食料安全保障といったセーフティーネットの構築と、本質的に表裏一体でなくては成立しないということです。

ひとたび世界に目を向けたとき、私たちは文字通り無数の人々が、飢餓と貧困に苦しんでいることに気づかされます。(a)、この惨状を生み出した原因のひとつに己の欲望を満たすために金儲けに邁進する「悪しき市場主義」があるのはまぎれもない事実です。市場経済を信奉する経営者の一人として、またその一方で「人の幸せとは何なのだろう」と考え続けてきた個人として、①目をそらすことのできない問題です。

私は学生時代にボランティアを経験していたこともあり、経営者となってから、ある財団を通じてアジアの貧しい子どもたちのために、B著書の印税などを寄付するようになりました。

考えてみると、ボランティアやチャリティー、そしてNPOといった民間による非営利活動は、私たち民間人が市場経済メカニズムの外部に構築した、ある種のセーフティーネットです。

加えて私は、わが国ではセーフティーネットのひとつであるはずの補助金が、本来届くべきところに届かず、自助努力も経営努力も怠つていながら「補助金をもらうのは当然の権利」と勘違いしている人たちに回されることが②我慢なりませんでした。

セーフティーネットは本来、「怠け者を増やすシステム」ではなく、本質的な弱者の救済や市場メカニズムの不備を補うものでなければなりません。ですから私は、「自分の自由になるお金は、自分が意義を感じるところに使う」という、ささやかな直接民主制を実行してきたというわけです。

今から数年前のことです。私が寄付をしていたある財団の理事長が、「日頃のご協力にお礼を」と、私のもとを訪れました。何でもバブル崩壊後、それまでは寄付で集まっていた四十数億円の財源が三十数億円にまで減ってしまったとのこと。私は心配になって、「大丈夫のですか。私たちも一層努力して、もっと寄付するようにしますから」と訊ねました。するとその理事長は何を勘違いしたのか、こう答えたのです。

「いえ、私たちの団体は七億円もあれば運営には困りませんから、大丈夫ですよ」

(ア)カチンとききました。私は飢餓と貧困にあえぐ子どもたちを心配してそう訊ねたのに、理事長は、自分たちの組織が大丈夫かどうかと訊かれたかのように受け取ったのです。

③もうこの人たちにお金を渡すわけにいかない、と思いました。

残念ながら、慈善団体の中には、寄付でいただいたお金をどう遣っているのか、そのパフォーマンスについて、厳しく問われることがないところが少なくありません。(b) 寄付が集まるようになると、つつい自助努力を怠りがちになります。特に日本人は寄付をする場合、寄付先にその後の使い途についてとやかく言いません。報告も求めません。それは美徳かもしれませんが、一方でそのため慈善団体やNPOは、厳しいガバナンスを敷く必要がなく、結果としてお金の扱いがルーズになってしまったりするのです。公的サービスの世界同様、ここにも経営不在が目立つのでした。

(イ)そう決心した私は、二〇〇一年にNPO法人「スクール・エイド・ジャパン(SAJ)」を設立し、アジアの貧しい子どもたちへの支援を始めたのです。

このとき、絶対的なルールとして決めたのが、「会費や寄付などでいただいたお金は、一円残らず相手に届ける」ということでした。そして、そのお金のパフォーマンスを最後まできっちり見届けるようにしました。

運営費は私が経費指定寄付(用途を限定した寄付)として出していますから、こちらも一円も無駄にしないよう、見張ることができます。その結果、SAJにいただいたお金は、同じ金額でも通常の団体と比べ、何倍ものパフォーマンスを発揮していると思います。

(ウ)SAJは、カンボジアとネパールの子どもたちに対して、学校建設や学費、教材、給食、米などの支援を始めました。二〇〇七年三月までに両国合わせて七十二校を建設、約四万人の子どもたちが勉強できるようになりました。

(c) 同時に、SAJの活動は、こうした行為がいかに「焼け石に水」であるかを、私に痛感させることにもなったのです。SAJ設立以来、④私は何度もカンボジアを訪れています。

首都プノペンの真ん中には、ステンミンエンチャイというゴミの山があり、町中の廃棄物がそこに集まってきました。そして親もなければ住むところもない孤児たちが、このゴミの山で生活しています。

彼らは、ゴミの山の中から少しでもお金になりそうなゴミを探し出して売り、生活の糧にしているのです。もちろん、あらゆるゴミが集積されていますから、きわめて不潔な状態で、ものすごい臭いを放っており、有害な化学物質にまみれています。さらに悪いことに、あちこちでゴミが燃えていて、そこら中、ダイオキシンだらけです。

そんなゴミの山に、五歳とかせいぜい十歳くらいの子が手を突っ込んで、C金目のものを漁るのです。有害物質でただれたその手は、まるで老婆の手のようにカサカサに荒れ、血がにじんでいます。一番高く売れるゴミはペットボトルですが、より力の強い子や年かさの子が横取りするので、幼い子の手に入りません。朝から晩までゴミ探しの仕事をして、稼ぐ子でも一日九十円〜百二十円にしかならない。そして、こうした子どもたちのなかには人身売買されていく子たちもいるといわれています。

(エ)この子たちに笑顔はありません。幸せもありません。まして将来の夢など描くすべもありません。そして、いま十万人いるとされるカンボジアの孤児たちは、二〇一〇年には十四万人へと、増えこそすれ、減ることはないと言われているのです。

⑤カンボジアを訪れるたびに、私はゴミの山に立ち尽くし、絶望感にうちひしがれます。

もうできない。

もうやめてしまおう。

けれども、ここが私の鈍感なところであり、むしろいいところなのかも知れませんが、そんな絶望感や無力感は一〜三時間すると、きれいさっぱり消えてなくなってしまうのです。そして、再びやる気が湧いてくるのです。

「たしかに私一人の力では十万人の孤児を救うことなど不可能だ。けれども今、目の前にいるこの子一人は救えるかもしれない。生活の場と食事を与え、学校に通わせることはできるだろう。そうやって一人救えれば、二人三人と数を増やしていくことはできるかもしれない」

私はそう考えてこのNPO活動を続けています。近い将来には、何人かでも日本に受け入れ、私の学校に留学させようという計画も立てています。

私が生きている間は大した成果は見られないかもしれませんが、ですから私は百年先を見据えた視点で、自分がいま行っていることを考えることにしています。そうすればSAJの支援を受けた子が、大学を出、事業を起こし、市場経済のリングに立って、先進国の事業家たちと対等に競争する、そして新生カンボジアを導いていく人物になるかもしれない、と希望が持てるからです。

この地の巨大な貧困を見て、嘆き、悲しみ、絶望するのはたやすい。でも、十万人を救うことはできなくても、目の前の一人を救うことはできる。そう思う先進国の人がそれこそ一万人、十万人出してくれば、みんなを救うことはできるはずです。

これはいままでのビジネスで私が実践してきたことでもあります。目の前のたったひとりのお客さまにまず「ありがとう」と感謝されるような仕事をする。現在のワタミはその繰り返しでここまで大きくなりました。

世界の貧困を救ったり、環境破壊を防いだりするのも、まったく同じなのです。大切なのは最初の一步を、勇気を持って踏み出すことなのです。そんな勇気を持った人を、私は応援したいですし、いっしょに仕事をしていきたい、そして育てていきたい、と考えています。

先日、カンボジアのある孤児院を訪れました。

すると、かつて、あのゴミの山を漁っていた子どもたちに　　が戻っていました。明るさが戻っていました。百四十人の子どもを預かっている、その孤児院の施設長と話をしました。その人もかつて孤児だったそうです。

私はその人と英語で、「百四十人の子どもたちの生活を見るのは大変でしょう」と話しました。「大変です」と彼は答えました。しかしそのあと、笑顔で、ゆっくりと、今習っているという日本語でこう話してくださいましたのです。

「でもね、わたしは、ほんとに、しあわせです。ひやくよんじゆうにんの、こどもたちの、えがおをみて、こんなにしあわせで、いいんだらうか、とおもうんです」

⑥私がそれを聞いてどんな気持ちになったかは、もう、書く必要もないでしょう。

(渡邊美樹 『もう、国には頼らない。』より)

※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

問一 線部A～Cの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 () 欄a～cに入る語として、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア そして イ しかし ウ だから エ たとえば

問三 線部①「目をそらすことのできない問題です」とありますが、筆者が目をそらすことのできない問題を生み出した原因の一つを、本文から三十字で探し、はじめと終わりの三字を書き抜いて答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。

問四 線部②「我慢なりませんでした」とありますが、筆者が我慢ならなかったこととしてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 非営利団体が、市場経済メカニズムの外部に構築したセーフティネットの一つであること。
イ セーフティネットとは、本来弱者の救済や市場メカニズムの不備を補うものだという事。
ウ 補助金が本来届くべきところに届かず、結果カンボジアへ送る寄付金額が減ってしまうこと。
エ 自助努力も経済努力も怠りながら、補助金をもらうのは当然だと勘違いをする人がいること。

問五 線部③「もうこの人たちにお金を渡すわけにいかない、と思いました」について、次の問題に答えなさい。
(1) そのように思ったのはなぜですか。文中の言葉を使って、六十文字以内で答えなさい。なお、句読点や記号も一字に数えます。その後、筆者がとった行動としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
(2) ア 寄付でいただいたお金をどう遣っているのか、財団へ厳しく問い詰めた。
イ 寄付先へ寄付後の使い途について報告を求め厳しいガバナンスを引いた。
ウ 公的サービスに経営を存在させることを日本の全NPO法人へ提言した。
エ NPO法人を設立し、アジアの貧しい子どもたちへの支援を自ら始めた。

問六 線部④「私は何度もカンボジアを訪れています」とありますが、当時の「カンボジア」の様子としてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア カンボジアのほとんどの孤児たちが、ステンミエンチャイというゴミの山で日々生活している。
イ ステンミエンチャイというゴミの山は、あらゆるゴミが集積されて、極めて不潔な状態である。
ウ ゴミの山でゴミを漁る子たちの手は有害物質でただれてしまっており、カサカサに荒れている。
エ ステンミエンチャイというゴミの山で暮らす子の中に人身売買されていく子もいるといわれる。

問七 線部⑤「カンボジアを訪れるたびに、私はゴミの山に立ち尽くし、絶望感にうちひしがれます」とありますが、その理由を説明した〈次の文〉の空欄にあてはまる言葉を本文から五字で探し、書き抜いて答えなさい。
〈自分がしている行為がいかに「 五字 」であるかを痛感するから。〉

問八 本文には、〈次の一文〉が抜けています。本文にもどす時、もっともふさわしい場所を、文中の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。
〈こうなったら、自分たちでやるしかない。〉

問九 文中にある に入るもっともふさわしい言葉を本文から漢字二字で書き抜いて答えなさい。

問十 線部⑥「私がそれを聞いてどんな気持ちになったかは、もう、書く必要もないでしょう」とありますが、この時の筆者の「気持ち」としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 悲哀 イ 思慕 ウ 感動 エ 激昂

問十一 本文中に述べられている内容としてもっともふさわしいものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。
ア 筆者はかつて、学生時代にボランティアを経験し、その経験もあってある財団を通して寄付をするようになった。
イ 筆者が寄付をしていた財団の寄付額が減ってしまい、その財団の理事長は筆者に寄付額を増やすようお願いした。
ウ 自身でNPO法人を立ち上げた筆者は、カンボジアをはじめ、ネパール・インドネシアへの寄付支援を開始した。
エ 筆者は、自身で立ち上げたNPO法人での活動を通じて、自身の支援活動が大きな影響を与えていると確信した。
オ まずは目の前の一人を救うことが、貧困で苦しむ人々を救うために重要だと筆者は信じ支援活動を実施している。
カ カンボジアで出会った孤児院の施設長は、自身が孤児の時に救ってもらった経験から自身も孤児院で働いている。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

ずっとむかし、ひろいAソウゲンに、いっぴきのライオンが すんでいた。

「われわれは、ひやくじゅうの王。どうぶつのなかで いちばんの王だ」

①ライオンが ちいさかったころ、とうさんライオンは じまんげに そういった。

「ふん。それが なんだっていうんだ。このそうげんには、どうぶつは もう、おれひとりき」
ゆうやけにそまる そうげんを みまわして、ライオンは ぼそつとつぶやいた。ライオンは 草を たべた。草のあいだで あそぶ虫も たべた。どんなにたべても、おなかは いっぱいにならない。

「なんかもつと、にくにくしいものが くいいたいな」

そうげんをかける どうぶつたちを おいかけまわしたころを、ライオンは おもいだした。

「ふん。そんなことを おもいだして なんになる。さつさと ねちまおう」

そういうと、ライオンは おおきな木のねもとに、(a) よこたわった。いちにちいちにちが そうして すぎていった。

ある日のこと、いちわの鳥が そうげんに おりたつた。旅鳥のヨナキウグイスだ。

ライオンは ゆっくりしずかに 鳥に ちかづいて いった。ひさしぶりの にくにくしいものに。

「にげやしないわ。もつとどうどうと いらっしゃいよ」

いきなり 鳥が そういったので、ライオンは びっくりした。

「なんで にげないんだ。ひととびすれば いいことなのに」

ライオンが たずねると、鳥は こたえた。

「わたしは もうとべない。あんた、おなかすいてるんでしょ？ わたしを たべたらいいわ」

ライオンは すこしのあいだ 鳥を みつめた。ちいさなからだ。ぼろぼろのつばさ。

②あいにくおれは、にくは くわないんだ。おれのこうぶつは、草と虫さ」

ライオンは そういった。

その日から、鳥は そうげんで くらした。

ライオンと鳥は、いっしょに 虫をたべ、いっしょに ひなたぼっこをした。

ひのひかりを あびて、ライオンの毛が 金色にひかる。鳥は それを (b) ながめた。

鳥は ライオンに、それはいい声で うたをうたつた。ライオンは 鳥に、たてがみのなかを ねぐらにしてやった。

いちにちいちにちが こうして すぎていった。月のきれいな夜、鳥はライオンのBセナカからころげおちるようになって じめんにおりた。

「わたし、もういくよ」と、鳥は いった。

「こんな夜に、どこにいくんだよ」

「とおいところに」

「じゃ、おれも いくよ」

「だめ」

と、鳥は (c) いった。

③ライオンは、鳥がどこにいかうとしているのか、わかった。

「いやだよ。あしたも 虫をたべよう。ひなたぼっこをしよう。うたをうたつてくれよ」

そういうながら、ライオンは 泣いていた。

「およしよ、みつともない。あんたは ひやくじゅうの王じゃないの」

「ひやくじゅうの王じゃなくなつて いいんだよ。おれはただ、あんたといたいんだよ」

ライオンは おいおい泣いた。

鳥は なにもいわなかった。

どれくらいたつただろう。

「また あえるよ」

と、鳥は いった。

「いつ？」

いきおいこんで ライオンが きいた。鳥は こたえられない。

「ねえ、いつさ？」

※

くるしまぎれに こたえと、鳥は うたをうたいはじめた。

かすれる声。ときれとぎれのうた。それでも 鳥は うたいつづけた。

ライオンは じつと耳を かたむけた。

朝がきた。おおきな木のねもと、むねのしたに (d) 鳥をだいて、ライオンがいた。

ライオンは、みうごきひとつしなかつた。なにも たべようとしなかつた。ライオンは たったひとつのことを かんがえていた。

一〇〇年って どのくらいだろう？

いくらかんがえても、ライオンには わからなかった。
こうして、一年がすぎた。

二年がすぎ、一〇年がすぎていった。

ひろいそうげんには、もう ライオンもない。

④ そうして――

――一〇〇年がたった。

そのとき、ライオンは、岩場にはりつく 貝になっていた。

鳥は、海のちいさな 波になった。鳥だった波は、ライオンだった貝に、いつもCヤサしく 海をとどけた。

波がくると、貝は きもちよかった。

あるとき、ひとりの男が やってきて、ライオンだった貝を とっていった。

貝が なくなつたあとも、波は かわらずに 岩場にうちよせた。

また 一〇〇年がたった。

ライオンは、三人のまごのいるおばあさんになっていた。

まごたちは、しょっちゅうあそびにきたから、ライオンだったおばあさんは、ひとりぐらしてもさびしいことはなかった。

あるにちようび、まごむすめがいちりんの赤いひなげしの花を もってきた。

おばあさんは、それを まどべにかざつた。赤いひなげしの花は、あの鳥だった。

おばあさんは、まいにち ひなげしをながめてくらしした。花がちると、おばあさんはさびしくてならなかった。

ライオンは、魚になり、白いチョークにもなった。

北の国のリスの子になったこともある。

鳥は、りょうしになり、黒板になった。

リスの子のうえに はじめてふつた雪のひとひらに なつたこともある。

そうして なんとめかの一〇〇年がたったとき――

ライオンは、男の子として うまれた。鳥は、女の子として うまれた。

小学校の校庭で、ライオンだった男の子と鳥だった女の子は、はじめてあつた。女の子は、とおくの町からきた 転校生だった。

――⑤ なんだか まえに あつたことがあるみたいだ。

男の子は そうおもつた。

(石井睦美 『一〇〇年たったら』より)

※出題の都合上、省略・改編した箇所があります。

問一 線部A～Cのカタカナを漢字に直して答えなさい。(ただし、楷書でいいねいに書くこと)

問二 () 欄 a～d に入る語として、もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア うつとりと イ ひっそりと ウ きつぱりと エ ごろんと

問三 線部①「ライオンが」は修飾語です。この修飾語に対応する被修飾語を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ちいさかったころ
- イ とうさんライオンは
- ウ じまんげに
- エ そういった

問四 線部②「あいにくおれは、にくは くわないんだ」とありますが、そう答えた理由としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 小さな体でぼろぼろのつばさの鳥の挑発的な言葉に少しでも対抗するために、嘘をつくことで鳥を驚かそうと考えたから。
- イ 小さな体でぼろぼろのつばさの鳥を食べても、自分のお腹は満たされず、目の前の鳥にまったく興味を持たなかったから。
- ウ 小さな体でぼろぼろのつばさの鳥を見たライオンは、あえて嘘を言い、食わずにこの鳥と一緒に過ごしたいと思ったから。
- エ 小さな体でぼろぼろのつばさの鳥には、特別な力があるのではないかと感じて、もう少し様子を見てみようと思ったから。

問五 線部③「ライオンは、鳥がどこにいてこうとしているのか、わかった」について、次の問題に答えなさい。

(1) 鳥がいてこうとしている場所はどこでしょうか。その場所を説明した〈次の文〉の空欄にあてはまる言葉を、自分で考えて漢字一字で答えなさい。

〈自分の () 漢字一字 () が尽きた後の世界。〉

(2) この時のライオンの気持ちとしてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 鳥がどこにいてこうとしているのか分かったライオンは、鳥と別れることが嫌で自分も同じ場所にいくことを決意している。
- イ 鳥がどこにいてこうとしているのか分かったライオンは、鳥と別れることが嫌で、悲しい気持ちが突然に湧き上がっている。
- ウ 鳥がどこにいてこうとしているのか分かったライオンは、その場所は自分がいけないと分かり、温かく見守ろうとしている。
- エ 鳥がどこにいてこうとしているのか分かったライオンは、その場所は自分がいけないと分かり、鳥に対して嫉妬をしている。

問六 文中にある ※ に当てはまる言葉としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「うーん、そうね、とにかく朝が来たら」
- イ 「うーん、まず、うたをきいてくれたら」
- ウ 「うーん、そうだね、次の春になったら」
- エ 「うーん、そうだね、一〇〇年たったら」

問七 線部④「そうして——一〇〇年がたった」とありますが、時がたって、ライオンがなったものを次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 波
- イ まご
- ウ 海
- エ 貝
- オ おばあさん
- カ 虫
- キ 花
- ク 男の子
- ケ 魚
- コ 黒板
- サ 草
- シ リス
- ス チョーク
- セ 女の子
- ソ 雪のひとひら

問八 線部⑤「なんだか まえに あったことがあるみたいだ」とありますが、「まえ」の女の子の姿としてもつともふさわしい言葉を本文から十字で探し書き抜いて答えなさい。

問九 本文中に述べられている内容や本文の特徴としてもつともふさわしいものを、次のア～クの中から二つ選び記号で答えなさい。
ア 生まれた時から一人だったライオンは、肉を食べたことがなく、早く草食動物の肉が食べたいと願っていた。
イ ライオンは、そうげんで会った一羽の鳥と初めて話をした瞬間、この鳥とずっと一緒に生活したいと感じた。
ウ 鳥が歌を歌い、ライオンのたてがみの中をねぐらにした日々の生活は、ライオンにとって幸せな毎日だった。
エ ライオンが「いつ?」「ねえ、いつさ?」と二回質問した理由は、鳥がライオンを無視していたからである。
オ 赤いひなげしの花になった鳥は、おばあさんを喜ばせるために、まごたちに飾るようひそかに指示を出した。
カ 男の子が女の子と会ったことがあると思っただけは、ライオンだった時の鳥との日々を思い出したからである。
キ 姿形が変わっても、お互いにひかれあったもの同士がめぐり合う不思議さと素敵さが本文では描かれている。
ク 本文にある「生まれ変わり」の描写を通して、人間は誰もが動物になったことがあることを暗に示している。

一

問一 A ばんのう B ちよしよ C かねめ 問二 a ア b ウ c イ

問三 己の欲…主義」 問四 エ

問五 (1) 飢餓と貧困にあえぐ子どもたちのことを心配して訊ねたのに、自分たちの組織が大丈夫か訊かれたと受け取ったから。
【五十三字】

(2) エ

問六 ア 問七 焼け石に水 問八 (イ)

問九 笑顔 問十 ウ 問十一 ア オ

二

問一 A 草原 B 背中 C 優 問二 a エ b ア c ウ d イ

問三 ア 問四 ウ

問五 (1) 命【同義可】
(2) イ

問六 エ 問七 エ オ ク ケ シ ス

問八 旅鳥のヨナキウグイス

問九 ウ キ